西日本図書館学会セミナー
「西日本（九州・山口・沖縄）の図書館人」
-あゆみとこれから-

2022.2.26

工藤 邦彦（『図書館学』編集委員）

発表内容 **（レジュメ参照）** 1953（昭和28）年11月 西日本図書館学会創設

これまでの『図書館学』掲載論文（創刊号 1954年6月）および
西図編（2000）『九州図書館史』をもとに「学会セミナー」を回顧

1. はじめに
   1.1 築山信昭氏の講演記録（2003年3月）**50年代の図書館を築いたひとたち**

   『図書館学』82号（2003） p36～46掲載

   配布資料：「九州の図書館人･･･その群像」人名簿（築山論文から発表者一部補遺）

   1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり
2. セミナーのこれから：「文化人館長」（1950～60年代）の検証
   2.1 “「文化的な国家」の建設”という理念
   2.2 戦後における“市民図書館”の先駆け
3. おわりに：今後の学会活動におけるセミナーの位置づけ

1. はじめに　発表の動機

1.1 築山信昭氏（元九州龍谷短期大学）講演

（19）50年代の図書館を築いたひとたち

平成14年度　西日本図書館学会公開セミナー「九州の図書館人 その群像3」

熊本県支部・・・その3 蒲池正夫（熊本県立図書館長）の業績を披瀝

2003　3.15 於：熊本県大津町立おおづ図書館『図書館学』82号 p36～46

配布資料：「九州の図書館人・・・その群像」人名簿

（築山論文に発表者が一部加筆）

※「人物に注目した研究は時代・地域を問わずに盛ん」

三浦太郎 2008．研究文献レビュー：図書館史 カレントアウェアネス No.297（3. 人物への注目）

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

＊ 西図編2000.『九州図書館史』刊行の発議と軌を一にしている企画（築山氏）
オーラル・ヒストリー・シリーズとして開催
【参照】『九州図書館史』p61～62 通史編 昭和期 （12）戦後の名館長

「九州の図書館人」・・・その群像 第1回（1998年3月8日 於：福岡市総合図書館）

久保田彦穂 くぼた・ひこほ（児童文学作家・椋鳩十） 1905年生～1987年歿
国語教師（加治木町立実科高等女学校）を経て、鹿児島県立図書館長（1947～1968）
→鹿児島女子短期大学教授

演題 『図書館学』73号（1998）掲載
久保田喬彦（くぼた・たかひこ）「父・椋 鳩十」・・家庭での椋のようすを披歴
本村寿年（もとむら・ひさとし）「鹿児島県立図書館長・久保田彦穂」 ・・読書グループの形成（間接方式）

＊ 「農業文庫」の実践→県下における「親子20分間読書運動」の実施（鹿児島県・流水小学校発祥）

＊ 市町村（公民館・教育委員会事務局等サービス・センター）との共同経営方式：「立体的読書活動」を展開

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「九州の図書館人」･･･その群像　第2回　異色の2人を検証

（2001年3月17日 於：福岡市総合図書館）

菊池租 きくち･みつぎ 1904年生～1984年歿

戦中：北京近代科学図書館司書、国際文化振興会書記･上海資料室主任

→**福岡県立図書館長（1948～1964）**→九州産業大学教授

演題：岩猿敏生「菊池租の図書館学研究」『図書館学』79号（2001）掲載

※　菊池の哲学的論考を世に広め、岩猿（九大司書官）もまた図書館学をともに模索

演題：木村秀明「菊池租と福岡県立図書館」

＊**九州図書館界のリーダー･**･･西日本図書館学会第4代会長 “菊池図書館学”の浸透　『九州図書館史』p151

＊戦後における図書館学研究者、実務指導者　**図書館「学」のアカデミー性（学術性）の追求**

『図書館学』掲載　創刊号「英国の図書館法について」

第4号「櫛田文庫顛末」　　第14,15,16,18号等で、英･米図書館の法的規範史にも注視

第24～28号連載「図書館夜話」

福岡県立図書館報「文化福岡」随想．われもまた些（いささ）かの図書館学を

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「九州の図書館人」・・・その群像　第2回　異色の2人を検証

菊池租 きくち・みつぎ 1904年生～1984年歿

福岡県立図書館長（1948～1964）→九州産業大学教授

『図書館学』第46号 菊池租先生追悼号（1985.3）追悼文36編 掲載

歿後の1986年 西日本図書館学会員有志により論集刊行（限定版）

図書館史研究者としての側面　**『菊池租図書館学論集』**（以下、**『菊池論集』**）

編集委員代表 木村秀明（八幡大学 現九州国際大学）

論文掲載誌：『日本図書館学会年報』『図書館学』『図書館界』

『図書館雑誌』 福岡県立図書館報「文化福岡」

岩猿氏曰く **ドイツ図書館学の端緒を開く**

英・米国の図書館事情を研究、我が国における公共図書館の在り方を模索

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「九州の図書館人」・・・その群像　第2回（2001年3月17日 於：福岡市総合図書館）

永末十四雄（生）　ながすえ・としお　注）生＝本名　1925（大正14）年生～1995年歿

田川市立図書館長（館長在任期間：1967～1982）

北九州市立中央図書館相談役 →近畿大学九州短期大学教授

演題：佐々木哲哉「永末十四生（雄）と田川郷土研究会」『図書館学』79号（2001）掲載

：轟良子「永末十四雄と北九州市中央図書館」

＊『図書館学』第3号（1956）「町村図書館小考」、第9号（1961）「町村図書館の設置理念とその設立形態」ほか計5点寄稿　著書『日本公共図書館の形成』（1986）日本図書館学会賞受賞

＊**地域史研究**『筑豊石炭礦業史年表』と図書館活動双方で成果を挙げる。

「鬼の永末」（田川が主導、九州における市町村図書館運営モデルを確立）

＊岩猿の評価：『図書館学』第93号（2008）岩猿敏生『九州と三人の図書館史家：竹林熊彦、小野則秋、永末十四雄』（＝永末十四論）　**“全国区”の図書館人**

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「九州の図書館人」・・・その群像　第3回（2003年3月15日 於：熊本県大津町おおづ図書館）

蒲池正夫　かまち・まさお・・・理論と実践の人 1907年生～1975年歿

徳島県立図書館長（憲法記念館長1949～1962）→熊本県立図書館長（1963～67）

＊戦時中、広島県の海軍で技術情報文献活動（ドキュメンテーション）に従事

＊徳島新聞社（論説委員などジャーナリスト）勤務　「文化的な国家」建設への息吹

演題『図書館学』82号（2003）掲載　文化活動を重視

：新 孝一「徳島時代の蒲池正夫：憲法記念館のころ」民主主義社会の図書館像

：植村芳浩「熊本時代の蒲池正夫」　米国型の公共図書館モデルを範として実践研究

【徳島】徳島県立図書館機関誌『徳島文化』発刊、県下への巡回 “文化バス”の運行

【熊本】レファレンス強化、地域文化との連携

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「九州の図書館人」･･･その群像　第1～3回

1950～６０年代の「図書館人」を考察

第4回以降は、明治期以降の「図書館人」を検証

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「西日本の図書館人」・・・その群像　第4回

（2006年3月18日 於：山口市・山口情報芸術センター）

佐野友三郎　（1864～1920）さの・ともさぶろう・・・佐野友三郎の**図書館経営論**

ーいま、我々はなにを学ぶべきかー

秋田図書館長（1900～1902）→山口県立山口図書館 初代館長（1903～1920）

『図書館学』88号（2006）掲載（シンポジウム「佐野友三郎にまなぶもの」記録含む）**武田千代三郎知事の加護**

演題：升井卓彌 ますい・たくや「佐野友三郎の全体像」

：佐々木鶴代「佐野友三郎の児童サービス論」

：山本安彦「佐野友三郎が集めた図書館関係洋書の分析」

＊我が国おける近代公共図書館制度の確立 自著『米国図書館事情』文部省発刊（1920）

・巡回文庫、分類法作成（メルヴィル・デューイ直伝）・山口図書館児童室設置（公共初）

・通俗図書館経営（学校との連携）、帝国図書館（岩国出身 田中稲城館長）への対抗

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「西日本の図書館人」・・・その群像　第5回　山口にゆかりのある2人

注）日本図書館文化史研究会との合同研究発表会

（2008年3月1日 於：山口県立山口図書館）

田村盛一　たむら・もりいち（1893～1970）・・・佐野友三郎の下で出納手として勤務

山口図書館→神戸市立図書館→大阪市立図書館 司書（青年図書館員連盟発起人）

伊藤新一　いとう・しんいち（1885～1956）　山口県阿武郡 明木（あきらぎ）村立図書館長 現在の萩市

演題『図書館学』92号（2008）掲載

：田澤明子「出納所論」に見る実践の図書館人 田村盛一について

～佐野館長時代の山口図書館に始まる足跡を辿る～

：上野善信「伊藤新一（元明木村立図書館長）に関する一考察」

：福永義臣「伊藤新一・明木図書館の文献露出：地方区から全国区へ、しかし生涯在野の人」

【田村】相談事務の実践を「出納所論」でまとめる、『初代館長佐野友三郎氏の業績』（1943）発刊

【伊藤】戦前における”町村図書館“の運営モデルを確立、学校図書館の経営指導　論より実務の人

1.2 セミナーのあゆみ：ふりかえり

「西日本の図書館人」本発表では第6回 とみなす（2019年8月3日佐賀市 鍋島報效会 徵古館）

伊東平蔵 いとう・へいぞう（1857～1929）

東京図書館、大橋図書館、日比谷図書館勤務→1913（大正3）年 **佐賀図書館**第2代図書館長ほか

基調講演：吉田昭子氏（文化学園大学 伊東研究の第一人者）

「伊東平蔵とその実践的図書館思想」

吉田昭子「伊東平蔵とその実践的図書館思想」『三田図書館・情報学会誌』第67号、慶應義塾大学三田図書館・情報学会、2012年

研究発表：伊東達也「佐賀図書館の図書館史上の意義について」

旧佐賀藩主・鍋島家による「プレ県立図書館（のちに佐賀県立図書館）」としての成立

近世の文化的遺産（武家文庫等）を継承機能を有した旧藩の働き、近代の連続性（図書館制度と思想）検証

2. セミナーのこれから

：「文化人館長」（1950～60年代）の人物像と実践を明らかに

2.1「文化的な国家」の建設という理念

日本国憲法第25条①にある「文化的な」について 図書館等の文化施設がその射程に入るのでは。

＊図書館法（1950年）第1条「国民の教育と文化の発展に寄与することを目的とする」

2.2 戦後における“市民図書館”の先駆け

＊文部省（1946年2月）「新教育指針：平和的文化国家の建設と教育者の使命」公示

→ 1946～1952年 公共図書館の創設が相次いだ 本発表で触れる“高知市”もそのひとつ

【参考】永末十四雄（1991）市立図書館の主体性形成（1）：戦後期公共図書館における高知市民図書館の意義.『図書館界』42号（6）p321

2.1「文化的な国家」の建設という理念

＊日本国憲法 第25条①　すべて国民は、健康で**文化的な**最低限度の生活を営む権利を有する　**＊例）文化政策学の視点**

中村美帆（東京大学大学院人文社会系研究科 現職：静岡文化芸術大学）博士論文

「日本国憲法第25条「文化」概念の研究：文化権（cultural right）との関連性」

・「文化的な」について図書館等の文化施設が射程に入る。憲法第25条第1項はGHQ案には存在せず、国会の審議過程で社会党の提案によって挿入。

戦後日本は戦前のドイツの文化国家を払拭する意味での平和的「文化国家」論が主戦であった

＝憲法にある「文化的な」は、文化政策としての「文化」と同一の概念

参考文献 中村美帆 2014 戦後日本の「文化国家」概念の特徴：歴史的展開をふまえて『文化政策学』第7号 p135～156

中村の論考に与しやすい事例）　徳島憲法記念館における蒲池正夫の文化活動？

2.1　文化人館長　「文化的な国家」の建設という理念

前述した「西図セミナー」で取り上げられた先人に加え、

・**土岐善麿**　とき・ぜんまろ（1885～1980）

国語学者　東京都立日比谷図書館長、JLA理事長　歴任

・**鈴木彦次郎**　すずき・ひこじろう（1898～1975）

小説家　岩手県立図書館長（盛岡市在住）

など　文化人館長、文人館長として著名

※沖縄　**伊波普猷** いは・ふゆう 沖縄県立沖縄図書館 初代館長（1909～1924）「沖縄学の父」

城間朝教 しろま・ちょうきょう（1889～1979歿）5代目館長・中央図書館長（1947～51）

『図書館学』101号（2012）掲載 漢那憲治 米占領下沖縄における図書館事情：城間朝教の人と業績を中心として

2.1　文化人館長　①　「文化的な国家」の建設という理念

中村地平　なかむら・ちへい（1908～1963）別紙『人名簿』参照

作家、井伏鱒二門下の一人 芥川賞候補（1938年）参照：ウェブサイト「みやざきの101人」

戦後帰郷し、日向日日新聞（現宮崎日日新聞社）編集総務など

宮崎県立図書館長（館長在任期間：1947～1957年）

退任後、宮崎相互銀行社長就任

＊館報『緑陰通信』創刊（1950年）、館旗・館歌の制定、館内で演劇部を組織

＊「花と絵の図書館づくり」・・・館内を癒しの空間に（大正画壇の画家ルーム設置）

＊文芸による図書館振興（文芸懇話会）・・志賀直哉、火野葦平らの講演会実施

中村退任後、日高一や黒木淳吉といった文化人館長が文化活動路線を引き継ぐ

【参考】中村祐吉（大阪府立図書館中之島図書館長）戦後（1950年）における「大阪府文芸懇話会」の創設

2.1　文化人館長　②　「文化的な国家」の建設という理念

島尾敏雄　しまお・としお（1917～1986）

作家、郷土史家、教師、司書＝多彩な人物像

ヤポネシア論（中央史観からの脱却）の展開

鹿児島県立図書館奄美分館長（兼奄美日米文化会館長）

分館長在任期間：1958～1975年

＊本館の久保田館長の意向に沿い、「貸出図書館」「保存図書館」「参考図書館」を構築。奄美という離島域で貸出文庫事業を軸に読書活動推進、郷土資料の整備（奄美郷土研究会の再興）を行う。

拙稿『図書館学』113号（2018）掲載「奄美分館長・島尾敏雄における郷土資料収集のあゆみ」など

2.2 戦後における“市民図書館”の先駆け

③　渡辺進 わたなべ・すすむ （1926～2014）

20代の若さで館長職に就く　行政職として手腕発揮

高知市立市民図書館長（2代）

館長在任期間：1952～1971年

高知県と高知市が共同で整備した新図書館等複合施設「オーテピア」は、全国で初めての高知県立図書館と高知市民図書館本館の合築（がっちく）である。

（2018年7月開館）　　発表者 2021年2月25日撮影　→

2.2 戦後における“市民図書館”の先駆け

③　渡辺進 わたなべ・すすむ （1926～2014）20代で館長職に就く

戦後の公共図書館停滞期に成果を残す（日本で唯一のユネスコ協同図書館）。

＊館外貸出の強化、レコードコンサート、教養講座といった**集会活動**の実践

＊1953年以降 **出版事業**（「市民叢書」「市民新書」「しみん・しりーず」の発刊）の展開

＊1967年、点字図書館を館内に開設。館長退任後、市企画部長、福祉生活部長等を歴任。行政畑の館長　前川恒雄「中小レポート」公表前の“市民の図書館”像

永末も市立図書館のトップ・ランナーと活動を評価

参考文献：市立図書館の主体性形成（1）」1991年『図書館界』42（6）

『図書館人物事典』日外アソシエーツ 2017年　石山洋『源流から辿る近代図書館』2015年

関根善二 せきね・ぜんじ 3代館長　渡辺館長を引き継ぐ

3. おわりに　今後の学会活動におけるセミナーの位置づけ

（１）「築山」発掘の“文化人館長・図書館員”の業績を 再検証　**例）**

●北京近代科学図書館司書時代（在職：1937～1941）の菊池租　きくち・みつぎ　の仕事

山室三良 やまむろ・さぶろう 初代館長（九州帝大同窓）を実務面で補佐した様子が伺える

注）山室（中国哲学研究者 九大教授→福岡大教授）は、『図書館学』創刊号・第2号論文掲載

『菊池論集』（北京時代）　「図書館と私」「Homo sui Generis（ほも・すい・げねりす＝専門職の意味）＜自焚記＞」図書館雑誌 1966.7 「再見北京」 など掲載

研究成果：小黒浩司著（2016）『図書館をめぐる日中の近代』青弓社

第4章　日中戦争と北京近代科学図書館　北京近代科学図書館史の研究Ⅰ・Ⅱ（1987）

●“国際文化振興会上海資料室主任”（在職：1943～1945）菊池租と部下 **堀田善衛**や**武田泰淳**（作家）の交流

注）**西村捨也** にしむら・すてや（上海自然科学研究所勤務）『図書館学』創刊号（1954）「フランスにおける近代図書館の成立」

研究成果：終戦期・“文化人館長”の原点が上海における菊池の文化活動？

岡村敬二編（2017）『戦前期外地活動図書館職員人名辞書』 武久出版

〃　（1992）北京近代科学図書館の＜日本＞. 日本研究：国際日本文化研究センター紀要 7

〃　岡村氏「おおすみ書屋（ライブラリ）」ブログエッセイ（2020～2021記）『菊池論集』掲載文の検証

3. おわりに　今後の学会活動におけるセミナーの位置づけ

（２）検証の時代を拡げていく姿勢

近世から近代の接続期および明治末期から大正、昭和初期まで

（創刊当初の『図書館学』では、前述の菊池、永末や西村捨也（にしむら・すてや）など多くの図書館史研究が集積）

（３）公開の検討：デジタル配信（オンライン・セミナー）への対応

①学会H.P.から「オープンエデュケーション」としての公開も視野に　批判・修正の契機に

②学術情報としての**デジタルアーカイブ**整備の一環として地域アーカイブ構築、検証の評価を仰ぐ

↓

（2020年8月 **ジャパンサーチ**：国の分野横断型統合ポータルの公開→ **研究活動の活性化**）

過去の図書館事象（史的事実）を検証することは、現在の図書館現場に根差した問題認識において捉え直しを図ることを意味する 石井敦（1972）『日本近代公共図書館史の研究』JLA。

参考文献

●『図書館学』バックナンバー 1)～6)
1)西日本図書館学会（1998）『図書館学』第73号
2)西日本図書館学会（2001）『図書館学』第79号
3)西日本図書館学会（2003）『図書館学』第82号
4)西日本図書館学会（2004）『西日本図書館学会創立５０周年記念『図書館学』特別号』
5)西日本図書館学会（2006）『図書館学』第88号
6)西日本図書館学会（2008）『図書館学』第92号
7)木村秀明ほか編（1986）『菊池租図書館学論集』（限定版）菊池租図書館学論集刊行会
8)永末十四雄（1991）市立図書館の主体性形成（1）：戦後期公共図書館における高知市民図書館の意義.
『図書館界』42号（6）
9) 西日本図書館学会（2000）『九州図書館史』千年書房
10) 宮崎県立図書館（2003）『100年のあゆみ：宮崎県立図書館100周年記念誌』
11)中村美帆（2014）戦後日本の「文化国家」概念の特徴：歴史的展開をふまえて
『文化政策学』第7号 p135～156

ご清聴ありがとうございました

西日本図書館学会セミナー
「西日本（九州・山口・沖縄）の図書館人」
-あゆみとこれから-

2022.2.26

工藤 邦彦（『図書館学』編集委員）

おわり